

人のつながりの 豊かさが黒部の魅力

ありがとう



子育てをする中で、玄関先で、町なかで、出掛け先で、我が子や私に声をかけていただいたり、お野菜のおすそわけをいただいたり、地域の関わり合いや見守りなど人の温かみを感じ、子ども親も沢山の関わり合いの中で育っていくものだと感じました。「人のつながりの豊かさが黒部の暮らしやすさ」「まちは人でできている」そう感じて、私もこのまちに暮らす一人として、自分にも何かできないかを考えるようになり、行動を始めました。

出来ること から始める、 自分から動く

みじまします



まずは「知ることからはじめる」と考え、様々な場に参加してきました。「自分にできることから始める、自分から動く」をモットーに、地域福祉、移住・定住・転入・転動サポート、子育て支援とネットワークづくり、居場所づくりに力を入れて活動してきました。黒部で子育て中の母として生活している感覚と市役所職員として働いた経験を活かして、課題の解決方法を探りました。

- 私にとって黒部は、山・川・海・清水の豊かな自然と便利な暮らしの両方が叶うまち。
- 空気や水、食べ物といった生活の土台が安心安全なまち
- 日々の暮らしの中で人との交流があり、あたたかみやつながりを感じられるまち

このまちのよさがずっと続いてほしいと願い、そのためには人口減少対策と次の世代の担い手育成が必要だと考えて活動してきました。

移住してきた私の視点で、黒部の恵を次世代へ。

子育てのために 黒部に移住！



移住したきっかけは子育てです。出産後、転勤しながら子どもたちを育てる中で、自然豊かな環境でのびのびと子どもを育てたいと強く感じ、山、川、海、清水の豊かな自然環境に恵まれた黒部市に移住しました。身内も知人もい wasn't でしたが、移住候補地として初めて黒部へ家族で訪れたとき、自然の中でいきいきと遊ぶ当時2歳の双子の我が子の笑顔を見て、「ここにしよう」と決めました。

暮らし始めて、日常の暮らしの中に、「美しい景色」「豊かな水」「きれいな空気」「おいしい食べ物」があることに幸せを感じて、移住してよかったと思い定住を決めました。

はしづめ真知子 橋詰真知子

子育てグループ「みんな笑顔」代表
子育てサークル「くろてんズ」主催

プロフィール

- 1985年3月6日 愛知県春日井市生まれ。37歳。
- 小学3年生の時に岐阜県多治見市へ引越す。「転校生」を経験、すでに出来上がっている人間関係に入ることの難しさを知る。
- 高校3年生になった春に父親が他界し、母子家庭となる。母子家庭は、経済的な苦労だけでなく、精神的な苦しさもあると知る。
- 岐阜市立女子短期大学に進学し、可見市役所に就職。
- 結婚後、双子妊娠と夫の転勤に伴い退職し、専業主婦になる。
- 子連れでの転勤を経て、子どもたちを自然豊かな場所でのびのび育てたいと思い2015年3月に黒部市に移住し、定住する。

現在の主な関連先(2022年時点)

くろべて住もう移住定住サポート協議会委員
くろべ結婚応援サポーター「こいサボ」
黒部市総合振興計画審議会委員
富山県男女共同参画推進員黒部市連絡会副会長
くろべ女性団体連絡協議会理事
黒部のふくしを良くするプロジェクトチームメンバー
黒部市立中央小学校PTA本部事務局次長

応援 お待ちしております！



ライン



Facebook



Instagram



ブログ

はしづめ真知子 連絡先／黒部市堀高39-10 tel.080-5128-8974
✉ tunagu.hirogaru.egao@gmail.com

はしづめ真知子 37歳

真実を知り
次に活かします！

移住してきた私の視点で、
黒部の自然、人、文化
人と人が支え合う
暮らしを守りたい。
魅力を幅広く伝えたい。

討議資料

わたしの これまでの活動

●黒部への移住・定住の促進活動

先輩移住者として、移住フェア等の場で黒部の魅力を伝えています。また、ブログやFacebookでは等身大の黒部の暮らしを紹介しています。未来の黒部を支える子どもたちへ向けて、黒部への郷土愛・地元愛を育むという視点での活動も必要と考え、発言しています。



東京での移住フェア

●男女共同参画、女性の活躍推進、結婚、出産、家事、育児



「くろてんズ」の活動

母と妻と仕事の両立の難しさや苦しさ、自分自身が試行錯誤する中で、さまざまな困難や課題を知り、具体的な改善策を考え、発言しています。子育てをお互いに支え合える子育てグループ「みんな笑顔」の活動を行なっています。

●明るい未来を描けるまちを目指す

「生き方は一つではなく、選択肢はたくさんある。」自分の置かれた環境、人や周囲の価値観によって選択肢が決まったり、あきらめたりしない社会、多様な価値観を認め合えるまちを目指して活動・発信しています。

●ICTで子どもの可能性を広げるために

ICT支援員として市内の小学校に勤務した経験（令和3年度1年間）を活かし、子ども自身が心と体を守りながら適切に使えるようになるための支援を、家庭・学校・行政が連携して行える方法を模索しています。

●安心して暮らせるまちづくり

黒部には、人と人が互いにつながった温かい交流があります。それが安心で楽しい暮らしにつながっているのだと実感しました。この魅力を未来へ継続していきたい。そのためには担い手が必要。自分自身も担い手になるために様々な場に参加しています。

わたしの これからの目標

豊かな自然と
便利な暮らし

安心 安全

黒部の魅力

人との
つながり

「黒部の恵を
次世代へ」

2015年に黒部に移住して来て、これまで日々の暮らしの中で人のあたたかみを感じて、「人のつながりの豊かさが黒部の暮らしやすさにつながっている」と感じて、このまちのよさがずっと続いてほしいと願い、様々な場に自ら参加・参画することで、多くのことを知り・学び、たくさんの人と出会い・つながり、ま

ずす黒部が好きになりました。

ボランティアや様々な活動をする中で、次の世代の担い手育成が必要だと感じてきました。今の時代を作り現在も活動してくださっている人たちが元気な今こそ、次の世代を担う私たちが当事者意識を持って、学んでいく・参加していく必要があると思っています。担い

01 多様な価値観を認め合えるまち

多様な価値観が認められて誰もが心地よく暮らせるまち。明るい未来を描けるまちを目指します。

02 黒部に住む人々のための賑わい創出

黒部に暮らす人たちが黒部に住み続けたいと思えるようなまちづくり、地域を身近に感じ、参加する人を、増やし、地域のにぎわいとつながりを維持します。

03 地域社会で子育てする仕組み

子どもを家庭だけでなく地域で社会全体で育てるという意識を広め、子どもたちがたくさんの人たちと関わりながら育つ環境づくりに務めます。

04 郷土愛・地元愛を育む機会の充実

05 魅力発信による経済発展

06 文化・伝統を後世へ継承

07 人口減少対策

手不足を解消するためには、参加・参画する人を増やすこと、そのためには関心をもつ人を増やす必要があります。黒部に暮らす一人ひとりが、まちの将来について考え、積極的にまちに関わりを持って欲しいと願っています。

しがみがないからこそ、公平な視点や立場で判断ができるとも思っていま

す。女性という視点、子育て中の母という点でも当事者として細やかな視点を活かしていけると思います。

外から来た自分だからこそ見える視点があるはずです。

だから私は挑戦します。

橋詰 真知子